

学校だより



みなみたなか

平成23年10月31日
練馬区立南田中小学校
校長 梶谷 雅弘

PRAY FOR JAPAN(日本のために祈る)と本校の教育活動

校長 梶谷 雅弘

最近、講談社のPRAY FOR JAPAN(日本のために祈る)を何度も涙を流しながら読みました。そして、何度も読み返すうちに希望や勇気が湧いてきました。

その本を読んだ後、5年生の下田移動教室に出かけましたが、私にとっては、手前味噌で大変恐縮ですが、南田中小学校の教育活動の確かな手応えを感じた3日間となりました。

冒頭紹介した本は、<http://prayforjapan.jp>(震災の夜、避難所で20才の大学生が一晩で作ったサイト)に、海外や国内の人々がアクセスし、ニッポンへの心揺さぶられるPRAY<祈り>のメッセージ・エピソードが世界中から届けられました。世界から寄せられた応援のメッセージや写真、そして日本で起きた様々なエピソードをまとめたものです。

震災に遭いながら自分のことはさておき、被害の状況を報道するために訪れていたスタッフにコーヒーをご馳走する避難されている方々の話、物が散乱し落ちている物を拾い列に並びお金を払って買い物をする人や運転再開した電車で妊婦に席を譲るお年寄りの話、避難所で呆然としているおじいさんに「大人になったら僕らが絶対元に戻します。」と背中をさすってあげる高校生の話、避難所で4人家族なのに分け合って食べるので3つしかおにぎりをもらわなかった人や凍えるほど寒いのに毛布を譲り合う人や一列に並び順番を守って物資を受け取る人々の話、レストランで食事中に地震に遭い、避難した人が後できちんと代金を支払いに来た話、など涙なくてはとても読めませんでした。この地震がきっかけとなり失いかけていた日本人本来のよさが垣間見られた気がすると述べている人もいました。

未曾有の大災害に遭いながら、自分のことを後にして周りの人々のことを気遣ったり、整然と行動できる日本人の素晴らしさを改めて実感しました。そして、何より、若者達が示してくれた素晴らしい行動力に敬意を表すると共に大きな勇気をもらいました。

5年生の移動教室でも、友達同士協力し合い、困っている友達にそっと手をさしのべる姿を数限りなく目にしました。これは、日々の教育活動の成果の一端だと強く感じました。

その日々の教育活動を評価していただき、11月5日午前都庁で、東京都教育委員会より「健康づくり優良学校(学校保健・学校安全分野)」として、表彰をされることになりました。

この賞は、東京都教育委員会が、児童・生徒の健康づくりについて、優れた功績や特色ある活動をしている学校等を対象に毎年表彰を行っているものです。

また、午後には、同じく都庁にて本校の読み聞かせボランティア「よむよむ隊」の皆さんが、東京都教育委員会より感謝状を贈呈されることになりました。

さらに、本校の研究が、東京都教育委員会ホームページの「言葉の力 -言語能力向上推進事業ニュース- 第6号」に紹介されました。ぜひ、一度、アクセスしてご覧下さい。



練馬区立南田中小学校の研究主題は、『「読むこと」を大切に、自分の考えを表現できる児童の育成 - 区立南田中図書館と連携した教育活動の推進 -』です。「南田中図書館と連携し、思考力・判断力・表現力等を育成するための国語科の授業の在り方の追究」「南田中図書館や学校図書館支援員の効果的な活用を探り、読書に親しみ、進んで自分の考えを表現できる児童の育成」をねらいとし、研究に取り組んでいます。